

みんなで作てよう、緑豊かな私たちの森！子ども達に贈る自然いっぱい森

能ヶ谷西緑地だより

2022年1月1日号 264号 能ヶ谷西緑地・樹の会



新年明けましておめでとうございます
平和で穏やかな一年でありますように



【1月の予定】

◆1月8日（土）（雨天中止）

・花広場整備

◆1月22日（土）（雨天翌日）

・ナラ枯れ対策グッズ作り

* 9:00現地集合（9:00～11:30）

◆1月8日（土） 平和台集会所

・ヤママユ連・手作りカフェー

（10:00～12:00）

問合せ：伊藤（735-8623）

どなたでも参加自由です。

作業には汚れても良い服装でおいでください。

※※※※※※

緑地だより

※※※※※※

12月11日（土） 晴 参加者10名

今日の緑地作業は、小田急住宅側斜面の草刈りとお花畑広場の梅・アンズなどの剪定、ジャガイモの収穫を行いました。

その後早めに切り上げ、11月19日（金）野津田

公園GIONスタジオ1階で開かれた、ナラ枯れの活動報告と意見交換会に、勝田、設楽が参加したので、その報告とここ西緑地で当面できることについて話し合いました。



その結果ナラ枯れで枯れた落枝の注意喚起の立て看板を早急に設けること、カシナガ捕獲のトラップの調達方法、具体的な危険がある木は市役所公園緑地課に除去や伐採を依頼することなどを決めました。

お茶しながら「注連飾作り」の反省や、納会について簡単な話し合いをして散会しました。

（設楽）

【緑地のシダ】フユノハナワラビ（冬の花蕨）



シダ類ハナヤスリ科の多年草。夏場休眠するシダの仲間で夏の終わり頃に小さな葉を拓げます。冬に小さな黄金色の花穂のような胞子葉が伸びることからつけられた名前です。生育期間は秋から春まで、夏は地上部が枯死して休眠します。

（長谷部）

12月25日（土） 晴 参加者12名、子ども1名

今年最後の作業になりました。朝方まで雨が降っていましたが、作業を始めるころには空は晴れ風もなくこの季節にしては穏やかな日和。

広場の木々もすっかり落葉し、枯れ葉の絨毯で埋め尽くされています。側溝の枯れ葉や土砂をさらう作業や物置小屋の整理を行いました。体を動かすと程よく温かくなり爽快でした。



作業を早めに終了した後、伊藤会長の納会のあいさつと共にささやかに乾杯しました。各々が持ち寄った手作りの品々をいただきおなかも大満足。この一年、風が吹く寒い日、夏の暑い中での草刈り草木の手入れ、なら枯れの被害などを思い出します。

最後に健やかな年越しを迎え、来年も作業に参加できるように挨拶して散会しました。

（藤井）

【緑地の樹】

ニシキギ(錦木) 別名:カミソリノキ

プロフィール: ニシキギ科 ニシキギ属
の落葉広葉樹 低木

緑地中央広場北側の急斜面の日陰に、高さ70~80センチ程のニシキギが一本生えている。12月だというに、葉の色はまだ黄緑色。ほんの数枚が赤く色づき、三粒ほど熟した実が破裂して、きれいなオレンジ色の種が顔を覗かせている。



ニシキギの古い枝には、「翼(ヨク)」と呼ばれるカミソリの様な長方形のコルク質の羽が付いている。この翼のないものは「コマユミ」で、ニシキギの変種と考えられている。

ニシキギは世界三大紅葉樹の一つとされ、赤く染まった葉の美しさは一際眼を引き、錦に例えられて「ニシキギ」と名づけられたそう。

「ニシキギ」というと、世阿弥作の謡曲「錦木」が思い浮かぶ。秋田県鹿角市錦木を背景にした悲恋物だ。

錦木地方にはその昔、若者が「ニシキギ」の枝を好いた女人の家の門に挿し立て、女人がその枝を取り入れたら、二人は結ばれるという風習があった。

ある錦木売りの男が名家の娘を見初め、毎日毎日、三年に亘って錦木を立て続けたが、枝が受け取られる事はなく、遂に疲れ果てて亡くなってしまった。娘は受け入れたくはあったが、その頃、大鷲が赤子をさらう事件が頻発し、羽毛の織物がそれを防ぐと聞き、機織の名手であった娘は三年三月休むことなく織り続けなければならなかった。織り終えて、若者が既に亡き者と知り、悲嘆の余り後を追ってしまう。不憫に思った父親が供養のために建立したのが今の鹿角市にある錦木塚である。

悲しい話の後には気分直しに簡単な料理を一品ご紹介します。元は京都のお茶屋さんの料理です。その名も「ニシキギ」。

お椀に、梅干の果肉、わさび、鰹節、ゴマ、醤油、もみ海苔などを入れ、ぐしゃぐしゃとよく混ぜ合わせる。それだけ!それを熱々のご飯に載せてかっ込む。悲恋の涙が、鼻をツンと抜ける涙に様変わりすること請け合いです。

(かつた)



真っ赤な帽子、ドウダンツツジの冬芽ぼうや



葉っぱも真っ赤



2022 正月輪飾り作り

12月4日（土） 晴 参加者 25名

昨年はコロナ感染防止の意味もあって中止した緑地恒例の輪飾り作りですが、多くの皆さんから残念の声が上がっていました。今年は比較的感染も抑えられていたので、思い切って実施、感染予防でなるべく離れて作るように設営の工夫をしました。

私たちの輪飾りは稲わらから飾りのナンテンやクログネモチの赤い実、マツボックリまですべて町田産、というより鶴川産の地元密着です。

当日は青空くっきり、スタッフは朝早くから設営したり、砧を使って稲わら叩いたり。10時になると参加者が三々五々集まり、稲わらや飾りを受け取っていきます。もう経験している人が多く、どんどん仲間を作って4人一組で縄を編んで作っていきました。縄がうまく編えていないグループにはSさんが指導してくださって、どの輪飾りもとてもきれいにできあがりました。

(小川)

すばらしい2022年が
迎えられますように！



【緑地を楽しむ本】

『季節のごちそう ハチごはん』

横塚眞己人 写真と文

ほるぷ出版



表紙の写真はハチがテルテル坊主のようなものをぶら下げて飛んでいる。3ページの写真は女の子がヘボ（黒スズメバチ）の甘露煮入ったご飯をおいしそうに食べている。本当においしいのかなと疑りたくなる。でも、本当においしいらしい。

岐阜県、長野県、愛知県などの山間部では今でもこれを食べているという。ヘボは土の中に

巣を作るので、簡単には見つけれない。それで7月頃、表紙のようにハチに目印を持たせて、飛んでいくのを何人もで追いかける。

やっと巣が見つかったら家に持って帰る。そしてヘボにえさや砂糖水を与えて世話をすると、秋には巣は10倍以上に大きくなる。巣の中にはたくさんの幼虫やさなぎ。

それを甘露煮、ヘボ釜めし、ヘボ五平餅などに加工する。ヘボの巣コンテストまでであるという。私も1度食べてみたくなった。

(齋藤好子)

- ◆ 緑地内は自然緑地として保全をしています。怪我しないよう十分に気をつけて楽しんでください。
- ◆ 「緑地だより」編集：小川 TEL/FAX：796-1801（ご意見がありましたら小川までお寄せください）

「能ヶ谷西緑地・樹の会」のHP（毎月末に更新）

<http://home.a03.itscom.net/ryokuchi/>

配信希望の方は、小川まで

(ogamariko@gmail.com)